令和７年度 第１回沼津市幼保小連携協議会　報告

１　日　時

令和７年９月 29 日（月）14:30～16:10

２　場　所

青少年教育センター　２階会議室

３　出席者

雨宮　なおみ　（香貫小学校長）

後藤　信俊　　（幼保連携型認定こども園こずわ幼稚園長、沼津市幼児教育研究協議会会長・沼津市私立幼稚園協会会長）

土井　みどり　（金岡保育所長）

大友　未来　　（片浜小学校 教諭）

（欠席）渡辺　司　　（小百合保育園長、・沼津市保育園連盟会長）

真野　津久美　（こども未来創造課・幼児教育アドバイザー）

教育企画課、学校教育課、こども未来創造課（事務局）

４　協議内容

(1) 令和７年度沼津市幼保小連携合同研修会について及び次年度の構想について

【事務局より】

令和７年６月６日に開催した沼津市幼保小連携合同研修会でのアンケート結果を踏まえ、次年度の研修内容や講話の検討、今後の連携にどうつなげていくとよいか。令和７年度に設定を始めた「幼保小連携週間」は、年度初めに実施できていない校区が６割あることがわかった。確実な実施のために、次年度は、合同研修会ではブロック別協議会を行わず、演習を含めた教育講演会のみ実施したいと考えている。また、本市の幼児教育アドバイザーを講師とし、市内での取組状況や「Spring プログラム」、「架け橋期のカリキュラム作成」などについての講話・演習を実施したいと考えている。

（主な意見）

（幼保）この合同研修会について他市の職員に話すと感心される。沼津市は幼保小で研修する機会を早めに設定でき、着実に実施できている。連携週間の際は、年度初めの子供のありのままの姿を参観したいと思っている。入学直後、子供たちが学校生活になじめているのか否かが知りたい。そういう場面を見られると、幼保としては勉強になる。保護者がたくさん来校している参観日ではなく、普段の授業の日を設定してもらえるとありがたい。

（幼保）合同研修会に参加した職員は、幼小接続の大切さを実感していた。参加者以外の職員にもそのことを共有していくことが課題である。合同研修会をきっかけに交流が始まった学校もあり、対面での情報交換のよさを感じている。日常の授業の様子を参観できたことで、考えさせられることがたくさんあり、実際に参観することの大切さを感じた。現場の保育士に参観させたいと思う。

（ 小 ）今年度がスタートしてから幼保との日程調整を行った。日常の様子を参観してもらい、情報交換ができて有意義であった。また、合同研修会をきっかけに Google Meet を使って情報交換を行った。２学期も参観の案内をしているところである。顔を合わせる機会が増えれば、今後も情報共有がしやすくなる。

（ 小 ）合同研修会をきっかけに顔見知りになり、連携のきっかけになった。連携週間も活用することで、限られた時間の中でどのように進めていくかが大事である。

⑵ 「１年生応援シート」について

【事務局より】

大平校区において、令和６年度末にシートを試行し、先生方の意見を反映させたので昨年度提案したものから一部改善した。大平校区での取組から、このシートが子供や保護者への適切なかかわりにつながったことがわかった。令和８年度入学生から全市で導入していくことになる。今後、幼保や小学校へシートの作成方法や活用方法について周知を行っていく。

（主な意見）

（幼保）園長会で話をした際に、個人情報の扱いについて心配する声があった。対策をしっかりと行いたい。シートは担任の先生に活用してもらえるとよい。このシートになることで、これまで以上に子供や保護者にとって有効な情報を小学校へ伝えていけるとよい。今年度から５歳児健診も始まり、就学時健診以前に支援ができる場合も増えてくる。受診率は87％だと健康づくり課から聞いた。幼保からも声掛けをして、受診につながるように努めている。

（ 小 ）入学前にお子さんの発達に不安がある保護者は、特別支援級の見学に積極的に来られて情報収集をしている。年少や年中の保護者もおり、近年見学者は増えてきていると感じる。子供の困り感に早く気付いてあげられると支援も早くからできる。

「１年生応援シート」は、小学校が積極的に活用し、子供や保護者が安心できるようにしたい。

（幼保）小学校で活用してもらえることで、保護者は安心感を持ってくれると思う。

（ 小 ）取扱いについては、受け取る側である小学校側が適切に取り扱っていく。

（幼保）大平での試行ができてよかったと思う。必要に応じて面談を行いながら、保護者の思いに寄り添いたい。

（ 小 ）保護者が思いを持って書いていることを小学校の教員に伝えていくことが大事である。

⑶ 「架け橋期のカリキュラム」について

【事務局より】

年長から１年生の終わりまでのいわゆる「架け橋期」の学びの連続性を可視化するため、国からもカリキュラムの作成が求められている。本市としてのカリキュラム（案）と作成の手順を示すことで、どのブロックでも作成が進み、連携がさらに進んでいくことを期待したい。大事なことは、幼保小で話し合いの場を持ち、学びのつながりを理解して教育活動に生かしていくことである。

（主な意見）

（ 小 ）示されたような形式があると、作りやすい。活用もしやすくなる。

（幼保）たたき台があれば、幼保小での話し合いの場を設定して進めていけばよいので助かると思う。幼児教育の大切さと小学校教育へのつながりを可視化することができる。

（ 小 ）このカリキュラムを作ることで、幼児期の教育内容がわかる。小学校側は、どうしても１年生がゼロからのスタートだと思ってしまっているところがある。話し合ってカリキュラムを作成することで、どのような学びの蓄積があるかが理解でき、授業改善にもつながる。

（幼保）幼児期に育ってほしい 10 の姿から重点項目を話し合って決め、それについてのカリキュラムになることで互いの活動の具体がわかり可視化できる。重点が中央に示されていて見やすいと思う。

（ 小 ）スケジュールについてはどうなるか。

（事務局）年度末に次年度のグランドデザインが出来上がってくるため、３月末に協議の場を設けて重点項目を決めることができれば、幼保小それぞれが関係する教育活動や授業を記入して

いける。１学期や夏季休業中に再度協議の場を設定できれば、夏頃には作成できるのではないかと考えている。

（小）長期休暇でないとなかなか時間がとれないが、必要なタイミングで協議の場を設け、内容を確認し合うことができれば、それほど難しくないと思う。

(4) 市内の現状について

【事務局より】

幼児教育アドバイザーが、幼児教育施設や小学校を訪問している中で、子供たちの生き生きと学ぶ姿や先生方の関わり、子供たちが主体的に活動できるような環境設定などの事例を紹介した。要請訪問は随時受け付けている。子供の交流や職員研修が、２学期以降も計画されているであろうことから、再度幼児教育施設には、こども未来創造課からメールにて周知を図る。小学校へは、教育企画課から校長会や教頭会において周知を図っている。

その他

・５歳児健診では「しりとり」を行うと聞いた。昔は、家族で車の中や待ち時間などに「しりとり」をする光景はよく見られたと思うが、今はゲームや動画などで時間をつぶしていて、家族での時間が減っていると感じる。言葉遊びを園でも行うとか、家族の時間にやってみるように園から勧める、ということも必要になっている。家族での時間の過ごし方が変化してきていることを受け止めていくことが必要だと感じる。